

第279号（2023年10月号） / 2023年10月1日発行

市議会第3回定例会（8/31～10/5）

第3回定例会市議会は8月31日に開会しました。
今号では、8月31日の本会議の主な内容を報告します。

1. インボイス制度の導入延期を求める陳情 自民、公明、わ・維新などが反対し否決

こまえ社会保障推進協議会が提出した「インボイス制度の導入延期を政府に求める陳情」は自民、公明、わ・維新（三宅・きたみ議員）が反対し否決されました。

日本共産党は宮坂良子議員が「インボイス制度が導入されれば、物価高騰など厳しい経済状況のなか、零細業者やフリーランスの方々に大きな負担が押しつけられる」と討論を行ないました。

2. 物価高騰対策—低所得者への支援拡大、 中小業者への再支援

補正予算を全会一致で可決。日本共産党は学校給食完全無償化求める。

市長提案の一般会計補正予算は、国の地方創生臨時交付金1億7780万円や地方交付税の増額1億6674万円、前年度繰越金の増18億9211万円等を

活用して、各種基金に12億7896万円を積み立てるとともに、物価高騰対策として、①住民税非課税世帯への3万円の給付金を均等割課税世帯（約900世帯）にも拡大、②大学生の生活と学業を応援するため単身世帯、学生の兄弟姉妹の同居世帯、市民税非課税等の低所得世帯、多子世帯等の学生に5万円を支給、③中小業者への電気料金高騰対策支援金として、法人10万円、個人5万円を支給する事業等が実施されます。これらは日本共産党が市長への申し入れや一般質問等で求めてきたものです。

日本共産党は補正予算を一層充実させるために、臨時財政対策債1億7406万円や財政調整基金1998万円を活用して、学校給食費の完全無償化や生活保護受給者への夏季見舞金1万2千円、低所得者へのエアコン設置支援（1人10万円）、インフルエンザワクチン接種費助成を行なう、予算組替え提案を行いました。これが自民、公明、立憲等、の反対で否決されるなか、日本共産党は原案に賛成しました。

学校給食完全無償化、補聴器購入補助、PFAS調査など求め

こまえ社保協として市に2024年度予算要望提出

8月29日（火）、「狛江市予算に市民の願いを！共同行動」（事務局はこまえ社会保障推進協議会）として、狛江市秘書課に、来年度予算編成にむけて市長あてに要望書を提出しました。

要望書は社保協に参加している8団体（東京土建、新婦人、民商、年金者の会、生健会、派遣村、医療生協、豊かな会）が、「学校給食完全無償化を」、「市民センター改修は市民参加で」、「PFAS（有機フッ素化合

物）の汚染調査と対策を」、「健康保険証の存続を」、「生活困窮者への支援を」、「補聴器購入に補助を」、「国民健康保険税の値上げ中止を」など多くの切実な要求をまとめたもの。（豊かな会ホームページ掲載）

しかし、市は2020年10月の「懇談会」以降は対面の交渉に応じず、文書回答（それも木で鼻をくぐるような）しかありません。今回の要望書に対してもどのように対応するか返答が届いていません（9月22日現在）。

10・22「図書館分割でいいの？市民集会」

10時～12時、中央公民館ホール

ちょっと待って図書館移転連絡会 周東三和子

「ちょっと待って図書館移転連絡会」では、10月22日（日）10時から12時、中央公民館ホールで「図書館分割でいいの？市民集会」を開きます。

基本方針の策定以来、既定事実として、市民の意見には一切聞く耳を持たず強引に進めようとしている松原市政に対して、図書館分割には納得できない、現在地での充実をとの市民の声を集約する集会にしたいと考えています。また、現在地で充実させるには、こんな案が考えられるという提案もして、皆さんの意見を聞きたいです。

プログラムの中でリレートークを行いますので、「豊かな狛江」をお読みの皆さんでぜひ発言したいという方は周東までご連絡ください。1人3分程度を予定しています。話すのはどうもという方は、ぜひメッセージをお寄せください。集会後、市長に要望を届ける予定です。

連絡先：mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

Fax:03-3480-8711

〒201-0012 狛江市中和泉2-6-12

周東三和子

公民館利用区分の変更も意見聞かず

また市の予定している改修後の公民館の利用に関して、9月20日と24日に利用団体に対する説明会がありました。利用区分を3区分から4区分に変更するために公民館使用条例の改定が必要で、その前に市民に説明する必要があるので開いたものです。

来年9月に中央公民館を閉めると同時に西河原公民館で4区分を実施するためには条例改定を12月議会にかける必要から、公民館側で4区分案を決定しての説明会でした。

20日の参加者からは、この区分では活動できなくなってしまう、切り替えの時間がなくて活動時間が短くなる、2枠取らないと活動できないが続いて撮るのが保証されるか、利用料金はどうなるかなどの疑問や、部屋の大きさや曜日によって区分を変えるなど柔軟な運用の提案もありました。

しかし、公民館側は、決まったことの説明会で、意見は聞いても全く変える気はないという回答でした。案を作る時にアンケートや利用者懇談会の意見を聞いているからというの、基本方針の時と同じです。しかもアンケートで1番多かった意見ではないものを採用しています。市民からの意見を取り入れ、少なくとも西河原で実施してみて、問題点を検討・改善した上で本格実施するのが当然ではないでしょうか。

ちなみに、「基本方針（図書館分割等）」の時は市民アンケートにも無い案で、2020年8月「庁議決定」され、直後の9月の市民説明会では基本方針の理由を説明せず（できず）、市民の疑問・反対意見は切捨てたまま、現在に至っています。

狛江市民 21 人の PFAS 血液検査の結果が明らかに

PFAS 汚染の実態を明らかにする狛江の会 重国たけし

多摩平均を下回るが、3分の1が米国指針値を上回る

6月末に市民有志のみなさんに参加していただいたPFAS（有機フッ素化合物）の血液中濃度を調べる血液検査（多摩地域で約140人の追加調査）の結果が明らかになりました（最終的に、府中診

療所で採血した20人に他の場所で採血された狛江市民の方の結果を合わせて21人で集計）。

分析作業を担っていただいた京都大学の原田浩二准教授の研究室の作業が混みあったことなどもあり、当初の予定より一カ月以上遅れての発表となりました。

この結果の特徴は、

①「4PFAS」(PFOS、PFOA、PFHXS、PFNA)の合計での平均値は19.1ng/ml

②米国の健康指針値20ng/mlを上回った人は7人(33%) (最大53ng/ml)

③環境省が21年に行った調査の2倍以上

④多摩地域の平均(23.4ng/ml、5月発表の650人の調査結果)よりは2割程度少ない(※9月21日に発表された追加調査を含む多摩地域791人の結果では平均値は22.0ng/ml)ということでした(詳しくは「狛江の会」の折り込みチラシを見てください)。

米軍横田基地が主な汚染源であり、地下水脈が南東に流れているという、確度の高い推定を踏まえると、つじつまの合う結果とも言えます。

健康影響をどう考えるか

PFASは指針値を超えるとただちに急性症状があらわれるといったものではありませんが、長期間で見るとさまざまに健康影響があらわれてくることが各国の研究で明らかになっています。日本では独自の研究が十分になされておらず、このために議会答弁などで「国内において、PFOS、PFOAの摂取が主たる要因と見られる個人の健康被害が発生したという事例は確認されていない」(狛江市答弁、9月7日)、などとして、対策に積極性がないことは問題です。

米国科学アカデミーの「ガイドライン」では、一定の血中濃度に達した場合、PFASの影響で生じる可能性がある脂質異常症や腎臓がん(腹部エコー)や精巣がん、潰瘍性大腸炎、甲状腺への影響などについて評価を行うこと、また特に妊娠中の人はPFAS暴露の低減を図ることが推奨されています。

多摩地域では立川相互ふれあいクリニックや府中診療所などにPFAS外来が設けられ、東京都は「PFAS相談ダイヤル」(03-5989-1772)を設置しています。

井戸水の独自調査も

ほぼすべての人が水道水などを通じて少なからずPFASを体内に取り込んでいますが、とりわけ井戸水では市内でも比較的高いPFAS濃度が検出されているところがあり、その飲用により血中濃度が高くなっている可能性があります。

井戸水についても「多摩地域の有機フッ素化合

物(PFAS)汚染を明らかにする会」では100カ所を超える独自調査をすすめており、市内でも「狛江の会」などが協力して5カ所を採取して検査を依頼し、現在結果を待っているところです(結果は10月上旬の予定)。

9月議会で岡村しん議員が質問

9月7日の狛江市議会一般質問では、日本共産党の岡村しん議員がPFAS問題を取り上げ、井戸水などPFAS汚染の実態と体内に取り込まないための対策について市の対応をたどりました。

質疑の中では、国分寺市や調布市では井戸水の独自調査にふみだしており、同様の調査を狛江市で行う場合(市が把握している井戸は約100カ所)約600万円で可能であることもあきらかにされました。岡村さんは、狛江市の財政でも十分できる額であり実施を求めましたが、市は「現時点では予定はない。国や都の動向を注視していく」と答弁するにとどまりました。

希望者への血液検査については、健康影響の知見がないから調査をしないのではなく、調査によって知見を集め市民の健康を守るという立場にたつことこそ必要と指摘しました。

また、汚染源とみられている米軍横田基地でPFASを含む泡消火剤の漏出問題についても事実を知りながら隠していた政府の問題を指摘し、基地への立ち入り調査によって原因究明と対策を進めるよう都や国にはたらきかけることを求めました。

徐々に高まる市民の関心

血液検査の結果について駅前でチラシを配布したところ、関心をもって受け取りに来られる方も少なからずおられました。

国の専門家会議の検討もすすめられ、国分寺市、調布市、武蔵野市など市民の不安にこたえ独自対策に取り組む自治体も出てきています。また、東京市長会の都に対する予算要望のなかにも盛り込まれるなど変化してきています。

各地の住民運動や国政・都政レベルで取り組みとも連携しながら、引き続き、PFAS汚染から市民の命と健康を守るため、実態の把握と対策を求めて取り組んでいきたいと考えています。

絵手紙作家・小池邦夫さんの逝去にあたって

「絵手紙発祥の地—狛江」をありがとうございました

元狛江市長 矢野ゆたか

8月31日、市内在住の絵手紙作家・小池邦夫さんが逝去されました。

私の市政3期目は、小泉政権が地方への交付金をいきなり大幅カットしたことから、不足財源確保が最優先課題でしたが、その行革中でも市民の力を借りて魅力ある街づくりを前進させたいと模索していました。

着任あいさつに見えた林狛江郵便局長から、1981年に郵便局で絵手紙教室を初めて開催したのが狛江だったと伝えられました。絵手紙は以前から個々の趣味として存在していましたが、郵便局という公の場を教室として、系統的な指導を通じ、「文化」に昇華させたという意味では絵手紙文化発祥の地を、狛江の街づくりに生かそうとひらめきました。その後一足早く準備に入った「音楽の街—狛江」事業に続き、2007年市民と市の協働による「絵手紙発祥の地—狛江」推進実行委員会を設置し、絵手紙教室講師だった小池さんに協力をお願いしたところ、絵手紙が街づくりの柱となることを喜ばれ、日本絵手紙協会会長としてご多忙な中を二つ返事で受けて下さったのが、お付き合いの始まりでした。

小池さんから街角ギャラリーや500人絵手紙教室、全国から狛江市への絵手紙募集など次々とアイデアをいただきましたが、印象に残っているのは、市から全国絵手紙コンクール開催を打診したときです。「絵手紙はヘタでいい。ヘタがいい」

というのは小池さんのお言葉ですが、書き手の率直な思いを表現するのが絵手紙で、そこに優劣を持ち込んではいらないとのお考えから市の提案は退けられました。人間一人ひとりのすばらしさを丸ごと大切にする小池さんだからこそ、絵手紙愛好者から慕われ、狛江での小池講演会には全国から駆けつけてくるのだと納得をしたものです。狛江駅北口の地下換気塔に掲げられた大絵手紙をみるたびに、それを描かれた小池さんの笑顔が思い浮かび、いつまでも忘れることはないでしょう。

小池邦夫さん、狛江のためにご尽力いただき本当にありがとうございました。深く感謝申し上げますとともに、安らかなご冥福を心より願っています。



コミュニティバスとして運行している「絵手紙バス」。小池邦夫氏と

あなたも絵手紙描いてみませんか

新婦人狛江支部では市内2カ所で絵手紙小组み（サークル）を開いています。

☆第2・第4 土曜日10時から 南部地域センター
(脇山 3480-3182)

☆第1・第3 土曜日9時から 上和泉地域センター
(重森 3489-6342)

いつでも体験できます。お気軽に見学にいらしてください。



10月の市民運動などの予定

※今月、市民運動団体などが予定している各種会議やイベントなど、日程を掲載するコーナーです。編集部が把握する情報には漏れがあると思いますので、ぜひあなたの情報をお寄せください。※本紙に折り込んでほしいピラなどがありましたら、320部用意してください。会報製本・仕分け作業日前日が締め切りとなります。折り込み希望の方は、可能な限り、会報の製本・仕分け作業をお手伝いください。

日 時	会場など	内 容	問い合わせ先など
3日(火) 16時30分～ 17時30分	狛江駅前広場	Silent Standing	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》
5日(木) 19時～21時	なかのZERO 大ホール	九条の会大集会—大軍拡反対！憲法改悪を止めよう	主催：「九条の会」 会費：999円 チラシ参照
9日(月・祝) 15時～16時	狛江駅前	9の日行動 = 駅前署名・宣伝行動	戦争なんてイヤだ！狛江市民 実行委員会
12日(木) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	こまえ社保協事務局・役員会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
13日(金) 10時30分～	みんなの広場	「豊かな狛江」11月号 編集会議	
17日(火) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	戦争なんてイヤだ！狛江市民 実行委員会相談会	各加盟団体の皆さんは、ご出席ください。
19日(木) 14時～16時	中央公民館 第2会議室	《平和憲法を広める狛江連絡会》《こまえ九条の会》合同世話人会	新しい方の参加大歓迎です。
22日(日) 10時～12時	中央公民館 ホール	「図書館分割でいいの？市民 集会」	ちょっと待って図書館移転！ 連絡会こまえ
25日(水) 17時30分～ 18時30分	狛江駅前	《消費税をなくす狛江の会》 の署名行動	民主商工会や東京土建狛江支部などが中心。第4水曜日。
30日(月) 14時～16時	みんなの広場	豊かな会拡大世話人会	世話人以外の方の参加歓迎です。
31日(火) 9時30分～	みんなの広場	豊かな会会報『豊かな狛江』 11月号の製本・仕分け作業	折り込みのある団体はご参加 ください。
11月4日(土) 14時～16時	東京土建狛江 支部会館	こまえ社保協第11回総会	各加盟団体の皆さんは、ご出席 ください。

こまえ平和フェスタ2023 若者たちの活躍に拍手と声援

西尾真人

私は「こまえ平和フェスタ実行委員会」のメンバーの一人です。4年振りにエコルマホールでの開催となりました。コロナ感染症拡大のために2020年は中止（平和フェスタニュースを発行、過去の歴史を振り返り整理。ホームページにアップ）、2021年は中央公民館の会議室からオンラインのみで実施（ICAN日本代表の川崎哲さん講演・狛江第3小学校6年生平和学習の感想文展示等：実施にあたっては大熊啓実行委員長が挑戦し、苦勞して実施に漕ぎ着けた）、2022年はエコルマホールが休館のため、西河原公民館ホールで定員を半減（約百名）させて実施、同時にオンラインでも配信しました（秋葉忠利元広島市長：残念ながら上京出来ずにオンライン講演・1992年度平和作文著者へのインタビュー記事の展示とニューヨーク州からのオンラインインタビュー）。来場者はもちろんですが、オンラインにより南は沖縄県から北は岩手県までの方々に聞いていただくことが出来ました。こうした継続の努力が今年のエコルマホールでの開催に繋がったと思います。

今年の特徴は何といっても出演者に若い人が多いということに尽きます。若い人にどうつないでいくのかということとは常に意識していますが、結果として出演者が若い人になりました。

昨年12月の実行委員会でウクライナへのロシ

ア侵略戦争があり、核兵器の脅しもあることから、核兵器禁止に詳しい方として、日本原水協の前川史郎氏の名前が挙がり、その場で即決ま



りました。これまでの講演者に比べて、40代半ばであり小学2年生の親という若さです。

もう一つの柱は朗読劇ですが、今年はプレ企画として紙芝居「戦争と狛江の



子ども達」（1999年3月狛江市。「狛江・語りつぐ戦争体験」の著者6人と画家金子嘉一氏による制作）の継承を掲げて活動していましたので、舞台では朗読劇として上演することにしました。表題からも想像されるように子どもの視点からの紙芝居です。配役に中学生・高校生を起用し、20代の2人には教師役などと共に当時の状況を俯瞰（ふかん）的に伝える役を配しました。

こんな準備をしているところに、今年3月に世田谷区立砧中学校卒業生の教え子が平和学習の中で詩を書いたので作曲して欲しいと、狛江市音楽連盟（後援団体）の会長で教師の小笠原一恵さんから大熊実行委員長に依頼がありました。これがきっかけで、合唱曲「虹をつなぐ」が創作され、第3の柱として歌われることになりました。この時の卒業生が広島原爆死没者慰霊碑に捧げたメッセージ、被爆者からお話を聴き在校生に伝えたメッセージ、それに写真にあるような卒業生一人ひとりが人型を切り取って繋ぎ虹にした作品がすばらしく、卒業後も学校に展示されていたので借りすることにしました。舞台では卒業した高校1年生の5人がメッセージを朗読し、多くの卒業生と教員が平和フェスタ合唱団で「虹をつなぐ」を合唱しました。

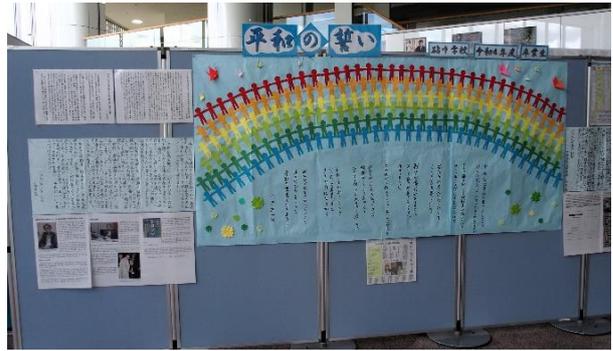
サプライズはもう一つ。司会です。従来も比較的若い方をお願いしてきましたが、今年は大熊さんが「歩（長女：小学3年生）さんが出来そうなので、頼んでみる」とのこと。自立心が強いこ



とは日頃、合唱練習などで遊びに来ているときに見聞きしていましたが、最初は驚きました。しかし、平和フェスタは議会で全会一致の平和都市宣言の実行を目的とする催しで、常日頃「平和が一番！」と言っている子どもさん、積極的に受けてもらえるならお願いすることに賛成しました。

こんな経緯で舞台の主演は若い人となり、高齢者を含めた幅広い年齢層の合唱団がバックの感じになりました。

展示も今年はオリジナルなものを多く取り上げました。前述した砧中学令和4年度卒業生作品「平和の誓い」、「ナガサキ」と題する市民の油絵、昨年発足した東京学生平和ゼミナールの活動紹介、実行委員会で調査した「模擬原爆って知っていますか?」「非核平和都市宣言のいろいろ」それに「プレ企画・紙芝居継承活動」、恒例の市民公募「平和と反戦を詠う」川柳・俳句等、「平和を願う」絵手紙などです。さらに、広島基町高校生が描いた原爆被爆者の聴き取り絵（レプリカ）、焼夷弾（実物）なども陳列しました。沖縄・広島・長崎の平和宣言、沖縄の米軍基地・東京の米軍基地、処理汚染水の海洋放出問題、それに原爆の写真と東京大空襲の絵などで平和展示を彩りました。平和図書コーナーや折り鶴コーナーも設けました。



来場された方のアンケートは「若い人への平和の継承を実感できた」「どの演目からも平和を願う思いが伝わってくる」「司会の元気な子どもさんの声に感銘した」「模擬原爆が西東京市に落とされたことを初めて知った」「展示が充実していて、とても勉強になった」など評価していただきました。他方で、「観客が少なくとても残念」との声が多数ありました。

来場者は250名、オンラインでの視聴者は86名で併せて約300～330名の方に聴いていただいたと思います。4年振りという事を考慮すれば、やっと300名規模の公演が出来たとホッとすることはありますが、来場者で比較すれば2019年の500名の半分です。ここを出発点に来年8月18日（エコルマホール）は来場者を倍に増やしたいと思います。豊かな会ニュースの読者の皆様には協賛金や広告、スタッフにと多大な協力をいただきましたが、来年に向け、来場者を増やすために、さらなる協力をお願いしたいと思います。

こまえ平和フェスタは狛江市の平和文化を担う中心の一つと自負しています。狛江から日本へ、世界へ「明日が今日より平和になるように」発信するために、ご支援を心よりお願い致します。



「10.5 九条の会 大集会」に行きましょう！

日時:2023年10月5日(木) 19時~21時

会場:「なかのZERO」大ホール

主催:九条の会「10・5大集会実行委員会」

狛江駅集合:10月5日(木) 17時30分

岸田政権は《軍事大国化》に前のめりで進んでいます。これを止めるために私たち市民の声で世論を喚起しましょう。

憲法改悪を阻止するために永年取り組んできている「九条の会」が危機感を持って全国の市民に取り組みを呼びかけています。

私たち平和を求める狛江市民もこれに参加し、岸田政権の《軍事前のめり》に『NO!』を突き付けましょう。 ※別紙チラシ参照

狛江の自然



ヒガンバナ

あっ、こんなところにも。方々の道端、植え込みから、ニヨキニヨキと真っ赤な、時々シロバナのヒガンバナが顔を覗かせています。秋の彼岸の頃に咲くからヒガンバナ。田んぼの畔を真っ赤に縁取るヒガンバナも素敵ですね。ヒガンバナの毒を利用して、モグラやネズミなどの害を防ぐために植えられました。また球根をすりつぶして、何回も水にさらして有毒成分のアルカロイドを除去し、救荒食にも用いられたとか。日本列島には有史以前に中国大陸から渡来したと考えられています。日本の秋に欠かせない花になっています。写真はシロバナです。

(中和泉 周東三和子)